

おぐる はつでんしょ  
小黒発電所

伊那谷に電力を供給し100年

伊那谷に現存する一番古い発電所。小黒川上流に、長野電灯(株)が建設し1913(大正2)年に完成。1915(大正4)年、伊那電気軌道(株)へ譲渡され、伊那電気鉄道に電力を供給する等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は中部電力(株)が管理している。

建設当時は、約2km上流の取水口から発電所の真上に見える水槽まで木の樋を使い、導水路延長1,358m、落差226mで、250kwの発電をしていた。現在は機械の取替えにより1,100kwの発電が可能である。

2013(平成25)年に、運転開始から100年の記念式典が行われた。



(注:川の中および発電施設は危険ですので、近づかないようにしてください)



1942(昭和17)年電気事業の配電統制令により、全国の電力会社が9社に統合された。伊那地方は中部配電会社管轄下となった。

1913(大正2)年に中箕輪尋常高等小学校(現箕輪中学校)の集団登山で11名の遭難者を出した事件を題材にした新田次郎の小説「聖職の碑」にある「内の菅発電所」は、この小黒発電所のことである。

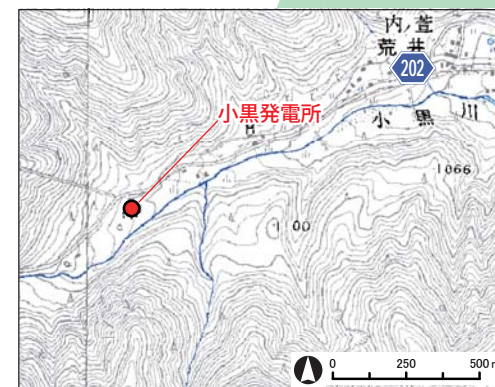
information

□ アクセス

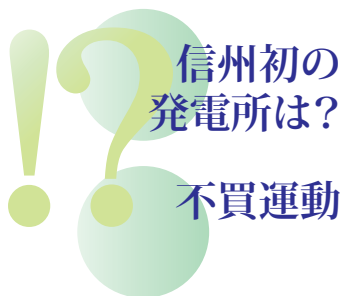
伊那ICから15km  
車→30分

□ 所在地

伊那市伊那



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)



信州初の  
発電所は?

不買運動

1898(明治31)年、長野電灯(株)は、長野市内を流れる裾花川に信州で最初の発電所となる茂菅発電所を建設した。当時は「水から火が灯れば、太陽が西から出る」と、発電を本気にしない時代であった。

長野電灯(株)より先に、伊那町(現伊那市)で「伊那電灯会社」の計画があったが、長野電灯(株)への権利譲渡という形で協議は決着した。しかし、赤穂村(現駒ヶ根市赤穂町)では、村営発電の意志が強く、長野電灯電力の不買運動騒動にまで発展した(赤穂電灯騒擾事件)。